

この秋、とっておきの
1冊と出会う



図1

あなたはこの1カ月に本(雑誌や漫画を除く)を何冊くらい読みましたか？(小・中学生)

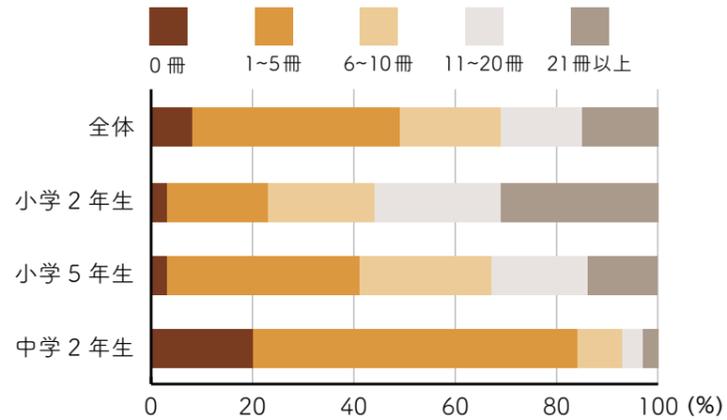
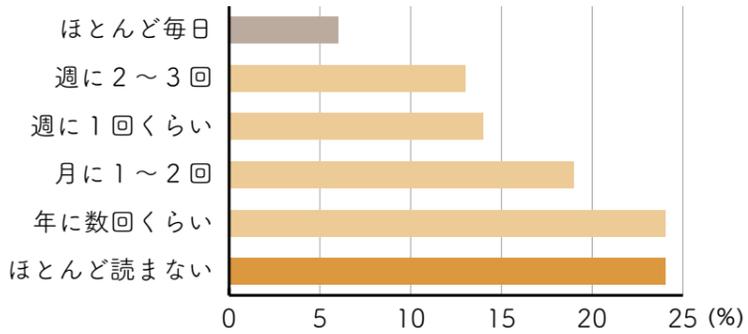


図2

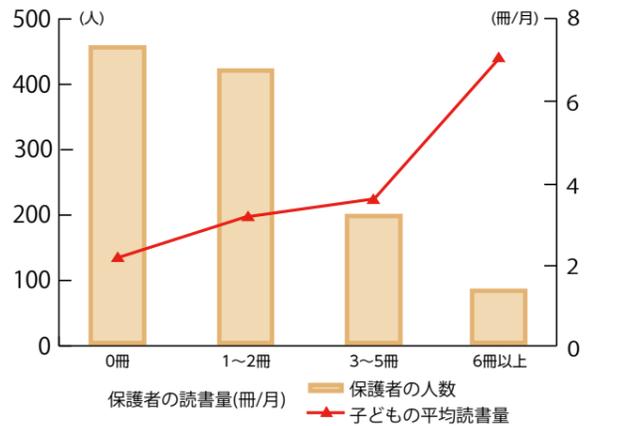
あなた自身は家庭で本を読みますか？(保護者)



出典：子どもの読書活動に関するアンケート調査 (古河市) [H27.2調査]

図3

保護者の読書量と子どもの読書量の関係性



出典：子どもの読書実態調査 (学研&講談社共同企画) [H27.3調査]

「一年に数回くらいしか読まない」と答える人が約5割を占めています。読書量の多い親の子どもほど、よく本を読むという調査結果(図3)からみても、子どものためにも親自身が、読書習慣を身に付けることは大切なことであると言えます。忙しい毎日を送る私たちの生活を豊かにさせる読書。この機会に読書始めて、魅力的で面白いと感じる「とっておきの1冊と出会う」を試してみませんか。

市では、平成27年に子どもの読書活動に関するアンケート調査(図1)を実施しました。これによると、学年が進むにつれて1カ月に読む本の冊数が減っていき、中学生になると約9割の生徒が10冊以下になり、全く読まない生徒の割合は2割に達します。また、保護者に向けた質問(図2)においても「ほとんど読まない

読書にはたくさんの魅力が詰まっています。本を読むことで、読解力や想像力、思考力、表現力などが養われると共に、多くの知識が得られます。また、作者の考え方や人生観に触れることで、自身の価値観を広げることができます。近年、「仕事や家事が忙しい」「読書よりも楽しいことがある」といった、生活環境の変化やパソコン、スマホ等の情報を取得する手段が増えたことから、成長と共に読書をする時間が減り、読書離れが進んでいるといわれています。

毎年10月27日から11月9日は「読書週間」です。ぜひこの期間に本を手にとって、自分の生活習慣に合った読書スタイルを見つけてみませんか。